



マラソンは 街を元気にする新しい「祭り」

関西大学が「第1回大阪マラソン」に協賛

- 七條 昌一 ・大阪マラソン組織委員会 事務局長 / 大阪陸上競技協会顧問
- 楠見 晴重 ・学長



関西大学は、10月30日に開催される「第1回大阪マラソン～OSAKA MARATHON 2011～」(大阪府・大阪市・一般財団法人大阪陸上競技協会主催)に協賛する。「マラソンを通じて大阪の街を元気に」という趣旨に賛同し、協賛団体として大会運営に協力するとともに、マラソンや大阪の魅力を紹介する一般市民向け公開講座、給水ボランティア、語学ボランティア、応援イベントなど、さまざまな取り組みによって大阪・関西の活性化に貢献する。

◆40歳を超えても長距離を走れる

楠見 関西大学は今年、前身である関西法律学校の設立から数えて125周年を迎えます。この間、大阪とともに歩み、大阪とともに成長し、大阪の地に根を張ってきた大学です。最近では大阪市北区役所や天神橋筋商店連合会と連携協力に関する協定を結び、地域貢献にも積極的に取り組んでいます。今回、大阪独自の新しい「イベント」として3万人規模の市民マラソン大会が開催されるにあたり、大阪を拠点とする総合学園として、このイベントに加わり、盛り上げることで、大阪・関西の活性化、元気な大阪の復活に少しでも貢献したいと考えています。

大阪マラソン組織委員会事務局長の七條さんは、大阪ガスの陸上部で長年、選手をご指導なさってきたと聞いています。大阪マラソンのお話の前に、ご自身の陸上競技とのかかわりを少しお聞かせください。

七條 私は中学時代から陸上競技をやっていましたが、学生・実業団(大阪ガス)時代は大した選手ではありませんでした。私は現役引退後、長年大阪ガス陸上部のマネージャーと女子のコーチを務めてきました。昭和50年ごろから、日本のトップクラスの中長距離の女子選手が入ってくるようになりましたが、コーチであった私は、若い時よりも中年になってからの方が、練習に真剣に取り組むようになりました。というのは、マスターズ陸上という40歳以上で5歳刻みの年齢別の大会が盛んになり、それを目指して若い選手たちと一緒に練習していると、若いころと同じぐらいの記録で走れるようになったのです。日本マスターズ(1,500メートル、45歳の部)では第2位の成績を収めることもできました。

そして、定年退職と同時に、大阪陸上競技協会の仕事を手伝うことになり、18年間、協会の事務局次長・事務局長を務めました。その後2010年4月1日に大阪マラソン開催準備委員会の事務局が発足し、その時から参画させていただくことになったしだいです。

楠見 実は、私は昨年の4月、本学が協賛している堺シティマラソンに参加し、4.5キロコースを走りました。それ以来、毎朝6時に起きてジョギングを続けています。最初はしんどかった

のですが、今は汗をかいた後でシャワーを浴びるのが気持ちいいですね。体もかなり健康的になっているのではないかと考えています。

七條 私が若いころは5,000メートルから10,000メートルぐらいが精いっぱい、フルマラソンなんて走る人は特別な能力を持った人たちだと考えていました。私は1,500メートルがいちばん好きでした。ところが、40歳を超えてからだんだん距離を長くしても、案外走れるもんだなあと感じました。

◆3万人参加の「チャリティ・マラソン」

楠見 「第1回大阪マラソン」は、3万人の定員に対して17万人を超える応募があったそうですね。これほど人気があることを予想されていたのですか。

七條 総エントリー数は171,744人で、そのうちマラソンが定員28,000人に対して154,822人、チャレンジランが定員2,000人に対して16,922人でした。東京マラソンの状況からみて、私なりに計算をして174,000人になるという予想を立てていました。そうすると、ほぼそれに近い数字が出て驚きました。

海外からは、中国、台湾、アメリカなど、計29カ国約1,100人の方が参加されます。国際色豊かな大阪マラソンを、将来にわたって世界的にも注目される大会に育てていきたいと思っています。

楠見 大阪マラソンには、どのような特色がありますか。

七條 まず、大阪マラソンは「チャリティ・マラソン」であると位置づけています。チャリティに賛同いただける方が、大阪マラソンのランナーです。大阪マラソンが日本のチャリティ文化の火付け役になればと考えています。大会のテーマである虹の7色にちなんで設定されたチャリティテーマから、参加者は一つを選んで一定額(個人は500円)を関係団体に寄付していただきます。

チャリティテーマは、次の7つです。①森林をよみがえらせ、育てていこう、②障がいのあるアスリートを応援しよう、③病気に苦しむ子どもと家族を励まそう、④がんを撲滅する活動を支援しよう、⑤景観を守り、美化する活動を広げよう、⑥子どもたちの心と体づくりを支えよう、⑦きれいな水を飲める世界をめざそう。

ところが、これらのテーマを決定した後に、東日本大震災が発生しました。そのため、新たに「復興に向け、ひとつになろう」というテーマを設け、寄付金を募っております。また、被災地にお住まいの742人のランナーの方々には、参加料を免除させていただきました。

◆給水・語学ボランティア、応援イベントに参加

七條 大阪を挙げての「お祭り」であることも、大阪マラソンの特色の一つです。ランナーだけでなく、大会を支えていただく約9,000人のボランティアの方々、沿道でランナーを応援してくださる約100組の「ランナー盛り上げ隊」の方々、沿道の100万人の観客とともに、大阪を大いに盛り上げていきたいと思っています。これには関西大学の学生・教職員の皆さんも参加し

■対談



楠見 晴重 (くすみ はるしげ)
1953年大阪府生まれ。78年関西大学工学部土木工学科卒業、81年同大学院工学研究科博士課程後期課程中途退学。82年関西大学工学部助手。専任講師、助教授を経て、02年教授。07年環境都市工学部教授となり、同年4月から学部長に。09年理系出身者初の関西大学学長に就任。学校法人関西大学理事。文部科学省大学設置・学校法人審議会委員、社団法人日本私立大学連盟常務理事、財団法人大学基準協会理事、土木学会フェロー会員ほか。共編著書に「地図環境情報学 地下を診る最先端技術」など。

ていただき、感謝しております。

楠見 関西大学からは、20人の出走ランナーのほか、給水ボランティア400人、英語・中国語・朝鮮語の語学ボランティア23人が参加します。応援イベントにも、応援団や同好会など8団体、約70人が参加する予定です。

本学は昨年4月、堺市に人間健康学部を開設しました。スポーツや福祉をテーマに、健康の問題を地域と連携して研究することを目指しています。同学部の杉本厚夫教授らが、大阪マラソン参加者および地域住民の意識変容に関する大規模な調査を実施することになっています。また9月24日には、千里山キャンパスにゲストランナーである谷川真理さんをお招きして、大阪マラソン開催記念のシンポジウムを実施する予定です。

給水や語学のボランティア活動を行う人には、地域の人と一緒に交わり、こういうかたちの地域貢献もあることを、身をもって感じてもらって、今後の勉学や人生の糧にしてもらいたいですね。

七條 大阪マラソンの経済波及効果については、関西大学大学院会計研究科の宮本勝浩教授に試算していただき、124億円と見込まれています。大阪を元気にするマラソン大会、大阪経済を活性化させる一大イベントになることを期待しています。

◆沿道の応援がランナーを勇気づける

楠見 大阪マラソンの出発点である大阪城のある上町台地の辺りは、古来最も安定的な土地でした。市内の大半は、関西大学の校章にも使われている葎の葉が茂っていた湿地帯で、上町台地以外は起伏の少ない土地ですので、今回のコースも比較的平坦ではないでしょうか。

七條 大阪城公園前をスタートし、御堂筋、道頓堀、中之島、京セラドーム大阪、なんば駅、通天閣周辺、南港ベイエリア周辺などを通過し、インテックス大阪がゴールとなります。大阪市中心部では観光気分を味わっていただき、そしてマラソン終



盤の正念場、38キロ付近では、大阪湾の美しいベイビューがランナーを迎えてくれます。

大阪のランドマークをちりばめた、大阪マラソンでしか味わえない、とっておきのコースに仕上がったと思っています。

楠見 おっしゃる通り、水の都といわれる大阪のランドマーク的なところはほぼ網羅されており、かなりご苦労されたことと思われま。

七條 ただ、住之江公園から後は、少し寂しい場所になりますので、その辺りに重点的に学生ボランティアの方々に入ってもらって、音楽やダンスなどでランナーを勇気づけていただきたいと思います。

去る7月30日に大阪市中央公会堂で開かれた「大阪マラソンシンポジウム」で、有森裕子さんに基調講演をしていただきました。その中で、こんなお話をされました。有森さんは1990年の大阪国際女子マラソンが、初めてのマラソン出場だったそうです。その際に、ちょっと足の故障があり、直前まで棄権しようかと迷っていたが、マラソンデビューなのでぜひとも走りたいという気持ちが強く、走り出したところ、16キロメートルの地点で痛みが出て、やめようと思った。しかし、沿道の大阪の市民の方たちの非常に熱心な応援があって、しかも笑顔で応援をしてくれたので、それに笑顔を返しながら頑張った。その翌年に、有森さんはまた大阪国際女子マラソンを走って日本最高記録(当時)で2位になり、続いてオリンピックに出場し、バルセロナで銀、アトランタで銅と、連続メダリストになりました。有森さんは、マラソン選手として大阪に育ててもらったとおっしゃっていました。

私は大阪国際女子マラソンに30年前の第1回大会からかわっています。大会前の記者会見で、「なぜ大阪を選ばれたのですか」という質問に、招待選手からは異口同音に「大阪の沿道の応援が非常に素晴らしく、勇気づけられるから」という答えが返ってくる人が多いのです。

◆「お祭り」的に大会を盛り上げ、地域を活性化

楠見 著名なランナーも多く参加されるとお聞きしましたが、どのような方々ですか。

七條 大会を盛り上げていただく、輝かしい実績をお持ちのOB・OGランナーであるゲストランナーには、中山竹通さん、砂田貴裕さん、谷川真理さん、深尾真美さん、和田光代さんなどが参加してください。チャリティへの寄付を呼び掛けていただき、大会当日はランナーとして参加して下さるチャリティランナーは、秋野暢子さん、森脇健児さん、小島智子さんなどです。

大阪マラソンは、大阪らしい知恵や発想で、「お祭り」的な要素をふんだんに盛り込んでいきます。大会を盛り上げるためのプレ・イベントや商店街、府内市町村とも連携した企画なども考えています。

楠見 10月30日に、本学と連携協定を結んでいる天神橋筋商店連合会と協力し、天神橋筋商店街でロボットを走らす計画を進めています。ロボットというのは、先端技術が集まってい

私は大阪国際女子マラソンに30年前の第1回大会からかわっています。大会前の記者会見で、「なぜ大阪を選ばれたのですか」という質問に、招待選手からは異口同音に「大阪の沿道の応援が非常に素晴らしく、勇気づけられるから」という答えが返ってくる人が多いのです。



七條 昌一 (しちじょう しょういち)
1932年大阪府生まれ。51年3月、香川県立高松高等学校卒業。同年4月に大阪ガス株式会社に入社。86年株式会社オーシーズボーツ取締役、92年9月に退職(大阪ガス株式会社監査部長)。同年10月大阪陸上競技協会事務局次長、99年事務局長、2005年常務理事兼事務局長、11年顧問。10年5月に大阪マラソン開催準備委員会事務局長、同年9月から大阪マラソン組織委員会事務局長に。

ています。システム理工学部の先生や学生らがロボットを走らせるイベントは、大阪マラソンと同時に開催的に実施することにより、地域の活性化につながると思います。

七條 大阪マラソンが大阪中に大きなムーブメントを起こすことによって、市民・府民の方々が大阪の魅力を見直し、明るい未来を肌で感じていただければと思っています。

楠見 関西大学の出走ランナーとなる人や応援に参加する人には、思いっきり楽しんでもらい、大阪に愛着をもってもらいたいと思います。給水や語学のボランティア活動を行う人には、地域の人と一緒に交わり、こういうかたちの地域貢献もあることを、身をもって感じてもらって、今後の勉学や人生の糧にしてもらいたいですね。本日はどうもありがとうございました。